



**OLYMPUS**

**35 EC**

●取扱説明書●

現金正価 ￥18,500

月賦定価 ￥19,500

ケース ￥1,300



お買上げありがとうございます。

オリンパス35 E Cは、正確無比な電子シャッター付で、便利なオートフラッシュマチック機構を採用したコンパクト35ミリカメラです。フラッシュ装置を取付けておくことにより、昼・夜を問わずどんな条件下でも美しい写真が撮れます。傑作を写すには、まずカメラの特長をよく知ることが先決です。撮影に入る前にこの説明書をよく読み早く自分のものにしてください。

## ●各部の名称



ファインダー接眼 ●

巻取りスプール ●

裏蓋 ●

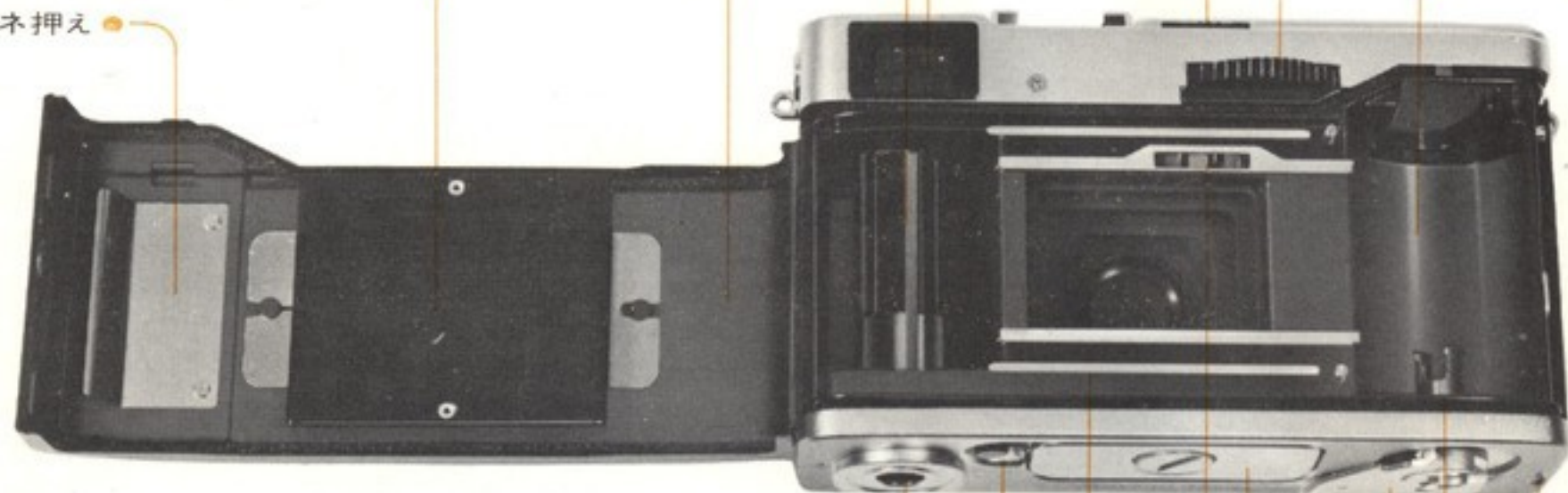
フィルム圧着板 ●

バトロネ押え ●

● フィルム感度ダイヤル

● 巻上ノブ

● フィルム室



三脚穴 ●

巻戻しボタン ●

フィルムガイドレール ●

スプロケット(フィルム送り歯車) ●

● 裏蓋開閉鍵

● フィルム巻戻し軸

● フィルム巻戻しレバー

● 水銀電池室

## ● おもな性能

画面サイズ：24×36mm (35ミリフルサイズ)

レンズ：E.ズイコーF2.8 f=42mm (4群5枚構成)

シャッター：セイコーESF電子シャッター

シャッタースピード：(プログラム式EE) 4秒～ $\frac{1}{800}$ 秒 (オートフラッシュマチック)  $\frac{1}{20}$ 秒

シンクロー：X接点

ガイドナンバー目盛：7～56(m), オートフラッシュマチックシステム

ファインダー：ブライトフレームファインダー 0.7倍, パララックス補正マーク付, ゾーンフォーカスマーク表示, バッテリーチェッカー兼減速警告黄ランプ点灯, オートフラッシュマチック撮影表示青ランプ点灯

フィルム装填：ELシステム (イージー・ローディング)

フィルム巻上：リヤーワインディング, 自動巻止, 二重露出防止, 二重巻上防止

フィルム駒数計：順算式, 自動復元

フィルム巻戻し：クランク式, 巻戻しボタンセット式

レリーズロック：レバー式安全レリーズロック付

ピント調節：全体繰出しヘリコイド, 目測式, 距離目盛0.9m～∞, 1m, 1.5m, 3m, ∞の4点クリックストップ付

露出調節：電子シャッターによる完全自動調節

フラッシュ調節：フラッシュ装置取付により自動的にオートフラッシュマチックシステムに切換

受光部：CdS使用

電源：水銀電池 (JIS・HM-N型) 1.4V 2個使用

EE可能範囲：EV 1 (4秒・F2.8)～EV 17 ( $\frac{1}{800}$ 秒・F13)(ASA100)

フィルム感度目盛：ASA 25～800

裏蓋開閉：蝶番式

アクセサリシュー：コードレス接点付

フィルター径：オリンパス43.5mmねじ込み式

大きさ・重量：111(巾)×67(高)×49(厚)mm, 410gr

## ●撮影のしかた

撮影は次の順序でおこないます。

正確な電子シャッター付EEカメラですので、誰にでも失敗なく写せます。またフラッシュ装置を取付ければ、オートフラッシュマチックシステムによりかんたんにフラッシュ撮影が楽しめます。



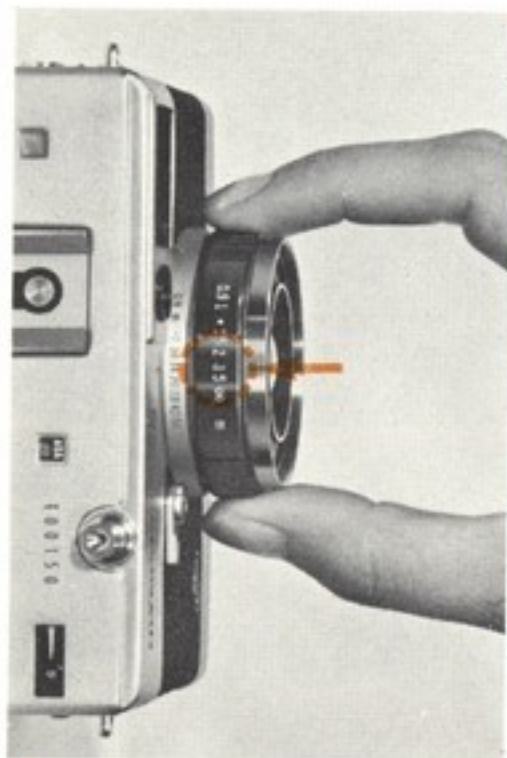
- 1** フィルムを入れます。(11頁参照)  
水銀電池は、あらかじめカメラに入れておいてください。(7頁参照)



- 2** フィルム感度をセットします。(8頁参照)  
フラッシュ撮影したい場合は、このあとアクセサリシューにフラッシュ装置を取付け、ガイドナンバーを合わせます。(19頁参照)



- 3** フィルムを巻上げます。(9頁参照)  
フィルム駒数計を1にします。(12頁参照)



- 4** ピントを合わせます。  
 (15頁参照)  
 EE撮影の場合は、ガイド  
 ナンバーがどこに合っ  
 ても構いません



- 5** ファインダーをのぞ  
 いて構図を決めます。  
 (16頁参照)



- 6** カメラをしっかり構  
 え、リリースボタン  
 を静かに押します。  
 (17頁参照)



- 7** フィルム全部の撮影  
 が終わったら、フィル  
 ムを巻戻します。  
 (18頁参照)



撮影に入る前に、カメラ各部の基本的な操作のしかたを覚えておきましょう。フィルムを入れなくて、一度操作してみることが大切です。

水銀電池は、カメラの電子シャッターを働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

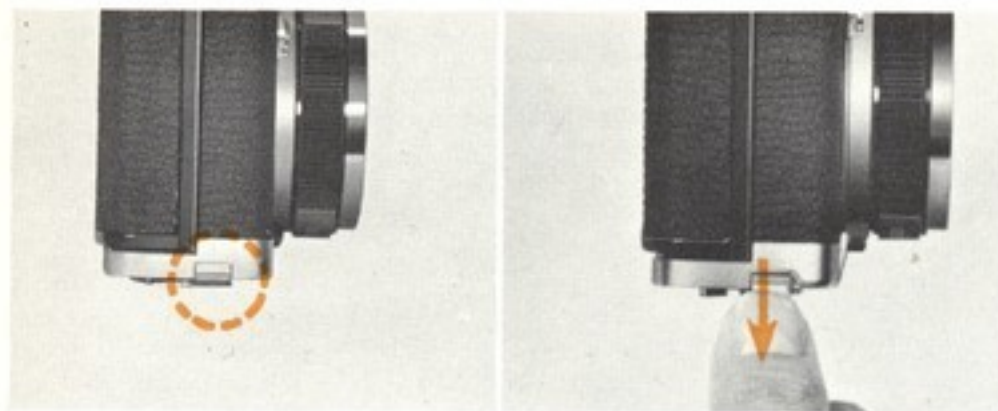
1. 水銀電池室の蓋は、その締付けねじの溝にコインなどをあてがい左（反時計方向）に回すとはずれます。
2. 次に水銀電池（HM-N型・1.4V）2個を、電池室の表示に従って正しく入れて、蓋を元通りに締付けてねじ込んでください。

◎注意事項——

- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、電子シャッターが正しく働かなくなります。寿命の有無は、黄ランプ（13頁参照）がバッテリーチェッカーの役目をはたしているのですぐわかります。
- 撮影の前には、必ずリリースボタンを押して黄ランプが点灯することを確認してください。また長期の旅行などには、予備のスペア電池を用意の方が賢明です。
- カメラを普通に使っていれば1年位、特に使用回数の多いときは半年位で交換するように心掛けてください。
- 水銀電池は、JIS・HM-N型（ナショナルマロリー-M-INS、マロリー-RM-640）を2個直列で使ってください。



## ● 裏蓋開閉鍵



カメラの後から見て右側面下部に、裏蓋開閉鍵があります。ここに指の爪をかけて下に引きますと、裏蓋が自動的に開きます。そのときフィルム駒数計も自動的にS（スタート）の位置に戻ります。閉じるときは、裏蓋を押してカチリと閉じてください。自動的に完全ロックされます。

## ● フィルム感度窓とフィルム感度ダイヤル

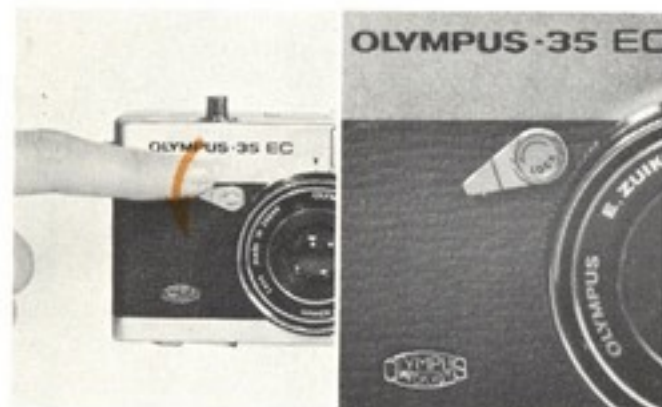


カメラ上部の中央にあるのがフィルム感度窓で、その側にある黒い回転ダイヤルがフィルム感度ダイヤルです。これがCdS受光部と連動して、受光部へ入る光の量を調節しています。フィルム感度ダイヤルを指先で回し、フィルム感度窓に使用するフィルムのASA感度ができるようにしてください。例えばSSフィルムなら100にセットします。

※ここでASA感度とは、フィルムが光に感じる度合を示す単位の名称で、フィルム感度の単位です。フィルムに明示されているこの数値は、35ECで適正露出を得るための唯一のセット数値ですので、絶対に間違わずにセットしてください。

ASA目盛：25, 32, 40, 50, 64, 80, 100, 125, 160, 200, 250, 320, 400, 500, 640, 800

## ● ロックレバー



カメラの前から見てレンズの左側にあるのがロックレバーです。ロックレバーを矢印の方向にクリックストップするまで倒しますと、リリースボタンは完全にロックされます。

撮影が終わって、すぐにカメラを使用しないときは必ずロックを掛けておきましょう。ロックの状態にしておけば、リリースボタンが押されず水銀電池の消耗が防げます。

なおロックをしておかなくても、フィルムが巻上がっていないときはリリースボタンが押せず水銀電池の消耗を防いでいます。

## ● フィルム巻上ノブ



フィルム巻上は、ペンカメラから受継いだ独特のリヤーフインディングです。巻上操作が片手でできますので、荷物がある場合などは大変に便利です。

1. フィルムを入れて巻上ノブを止まるまで（1回転）回せば、フィルムが1駒分巻上げられ、撮影できる状態になります。
2. リリースボタンを静かに押しませず。シャッターが切れて再び巻上ができます。二重露出防止になっていますから、フィルムが完全に巻上げられないと、リリースボタンは押せません。

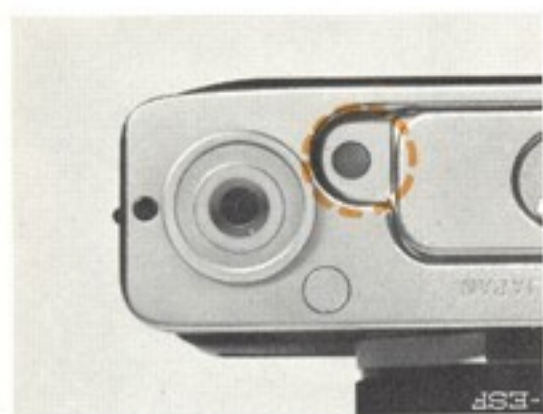
## ● フィルム駒数計



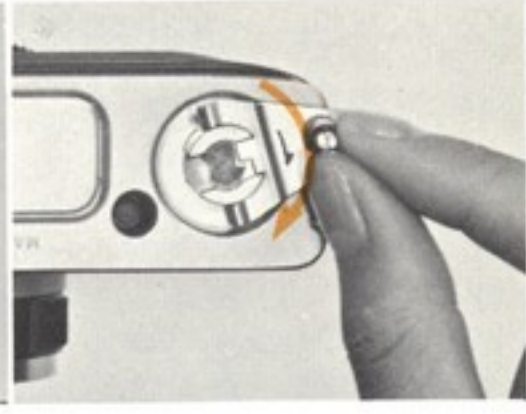
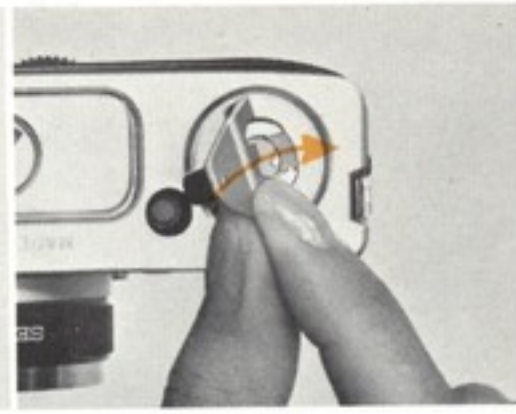
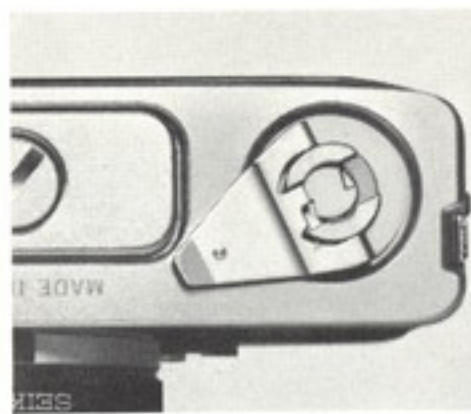
フィルム駒数計には、S（スタート）から36までの数字がS、1、2、4、6と以下偶数で刻まれています。そのうち12、20、36は黄色で区別してあります。フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動き、オレンジ色のマーク（▶）の先に撮影枚数が示されます。

撮影が終わって裏蓋をあけると、フィルム駒数計は自動的にSに戻ります。

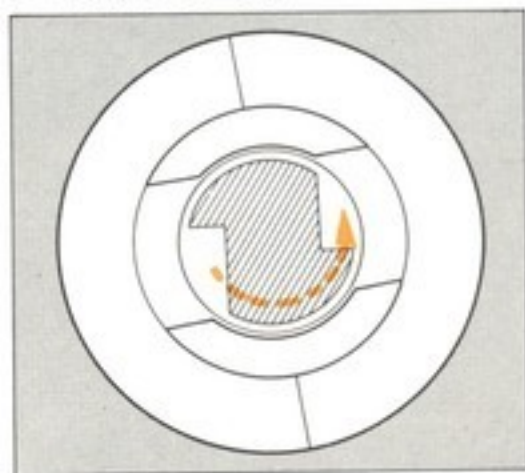
## ● フィルム巻戻しボタン ● フィルム巻戻しレバー



フィルムを巻戻す際には、まずカメラ底部にあるこの黒い巻戻しボタンを押込みます。一度押込んだら、巻戻し操作中元に飛びださないセット式です。巻戻し操作は、このボタンを押込んでからでないと行えません。無理に行おうとすれば、フィルムが切れる危険性がありますのでご注意ください。巻戻しボタンは、フィルム1駒以上の巻上で元の位置に自動的に復帰します。



フィルムを巻戻す操作は、この巻戻しレバーで行います。格納されている巻戻しレバーを一旦引起してから、黒いツマミを持って矢印の方向に回しますとフィルムは巻戻されます。巻戻しが終わったら、黒いツマミを元の穴に差込み、巻戻しレバーを元の位置に格納します。



- なお中心にあるZ型切欠部は巻戻し軸と連結しているため、撮影の際フィルムが正しく送られているかどうかは、このZ型切欠部が回転することで確認できます。

## ● フィルムを入れましょう

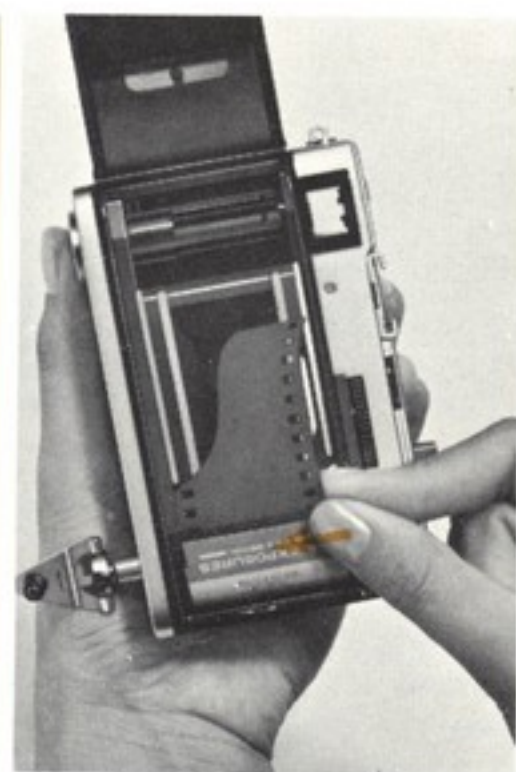
フィルムは、一般の35ミリフィルム（12枚・20枚・36枚どり）を使います。フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行うようにしてください。



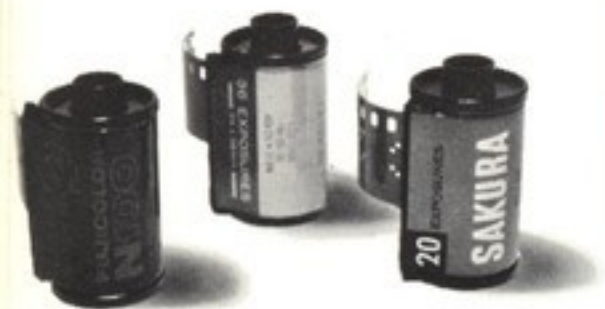
- 1** レリーズロックを解除します。ロックレバーを矢印と逆方向にクリックストップ位置まで回します。

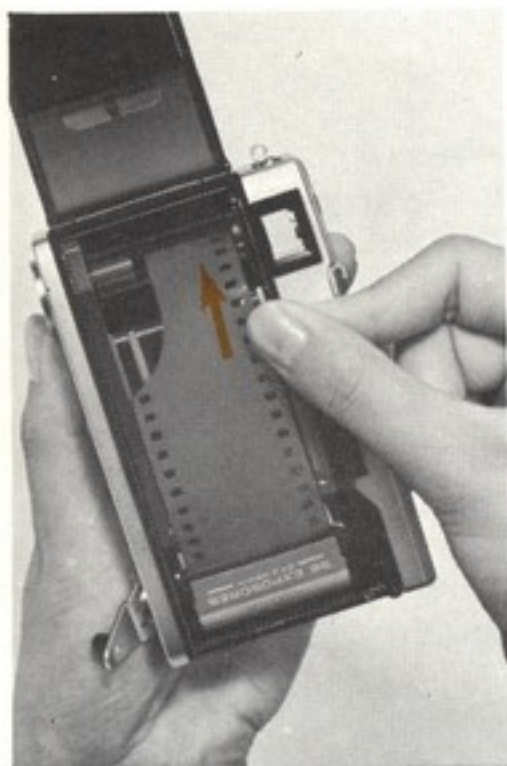


- 2** 裏蓋をあけます。カメラの横にある裏蓋開閉鍵を下に引くと、裏蓋が自動的にあきます。



- 3** フィルムを入れます。巻戻しレバーを起して巻戻し軸を引出し、フィルムパトローネをフィルム室に納めます。そのあと巻戻し軸を左右に回しながら巻戻し軸だけ元の位置に戻しておきます。





**4** フィルムの先を差込みます。

右手でフィルムの先を持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。このとき、フィルムが傾かないよう確実に差込むことが大切です。



**5** フィルムを巻上げます。

巻上ノブを回しながら、フィルムのパーフォレーション(穴)をスプロケットの歯にかみ合わせ、確実に巻取られるようにします。



**6** 裏蓋を閉じて、フィルムのタルミをとります。

パーフォレーションがしっかりかかっていることを確認してから、裏蓋を押してカチリと閉じてください。ここでフィルムのタルミをとるために、巻戻しレバーを重く感じるまで軽く矢印の方向に回してから、元の位置に格納します。



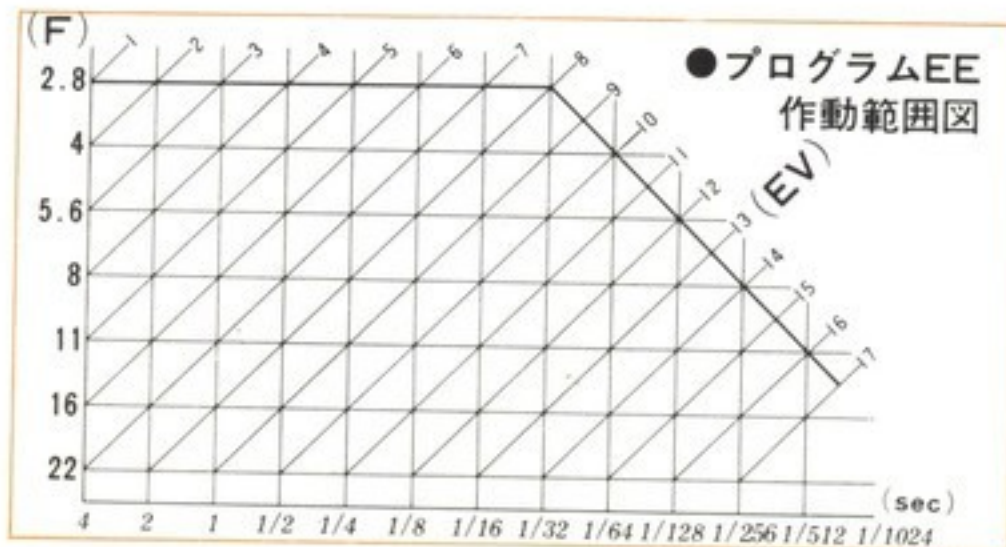
**7** フィルム駒数計を1にします。

ここでフィルムを巻上げてレリーズボタンを押す“空写し”操作を1〜2回行って、フィルム駒数計に1ができるようにします。ここから撮影に入ります。なおこの空写しの途中で、Z型切欠部が巻上につれて回っていれば、フィルムは正しく送られていることになります。

## ●露出はカメラまかせです。

オリンパス35ECは、いままでのカメラのように絞りやシャッタースピードの目盛がありません。露出決定は、精巧な電子シャッター使用のプログラム式EEの採用により、フィルムを入れたときにそのフィルム感度を合わせてやるだけで、あとは被写体の明るさに応じて最適の絞りとシャッタースピードの組合せをカメラが自動的に選んでくれます。また受光部に高感度CdSを使用することによって、その自動露出はこれまでのEE方式より一段と広範囲に働きます。(下図参照)

レリーズボタンを静かに押下げてください。黄ランプが点灯して、シャッターが切れれば適正露出の美しい写真がOKです。



### ●黄ランプについて

〈点灯するとき〉—————

レリーズボタンを少し押しして黄ランプが点灯すれば、電子シャッターが正常に作動することを示しています。すなわちバッテリーチェッカーの役目を果たしており、水銀電池は正常であることを示しています。

〈点灯しないとき〉—————

レリーズボタンを少し押しして黄ランプが点灯しないときは、水銀電池を入れ忘れていたり、正しく入れてなかったり、または電池が消耗してしまったことを示しています。このときレリーズボタンは押せますが、シャッターが正常に作動しませんのでご注意ください。



〈長時間点灯するとき〉

レリーズボタンを軽く半分ぐらい押下げていって、黄ランプが点灯し続けているときは、被写体が暗くてシャッタースピードが緩速（ $\frac{1}{30}$ 秒以下）で切れることを警告しています。そのため 1) あらかじめ三脚などを用意して手ブレに注意して撮影するか、2) フラッシュを使用して撮影してください。

1) の場合は、押下げたレリーズボタンを戻すとシャッターが閉じてしまうようになっているため、シャッターが閉じるまで、すなわち黄ランプが消えるまでレリーズボタンを押し続けていることが必要です。EV 1 (ASA 100) より暗い被写体で4秒以上の長時間露出を行う場合は、測定範囲外であり露出の精度は保証されません。また更に暗い被写体の場合は、セクターは開放となりバルブ (B) 露出と同じ状態 (レリーズボタンをはなすとセクターが閉じる) となります。

この場合長時間露出を繰り返すと電池の消耗が多くなります。30秒以上の長時間露出は行わないようにしてください。またテスト的な長時間露出もなるだけ避けてください。

## ● 特殊な撮影テクニック

露出はカメラまかせといっても、次のように EE カメラでは良い結果に写らない特殊な場合があります。

1) 逆光撮影 (光源へ向って撮影する) の場合

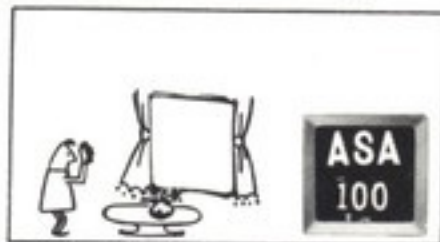


● ASA がそのままですと、人物は黒く陰になってしまっています。



● ASA を半分におとすと、人物がきれいに写ります。

2) 暗い所から明るい所を撮影する場合



● ASA がそのままですと、部屋の中が写って外景が白っぽくなります。







● ASA を2倍にすると、外景がよく写ります。

## ●ピントの合わせかた

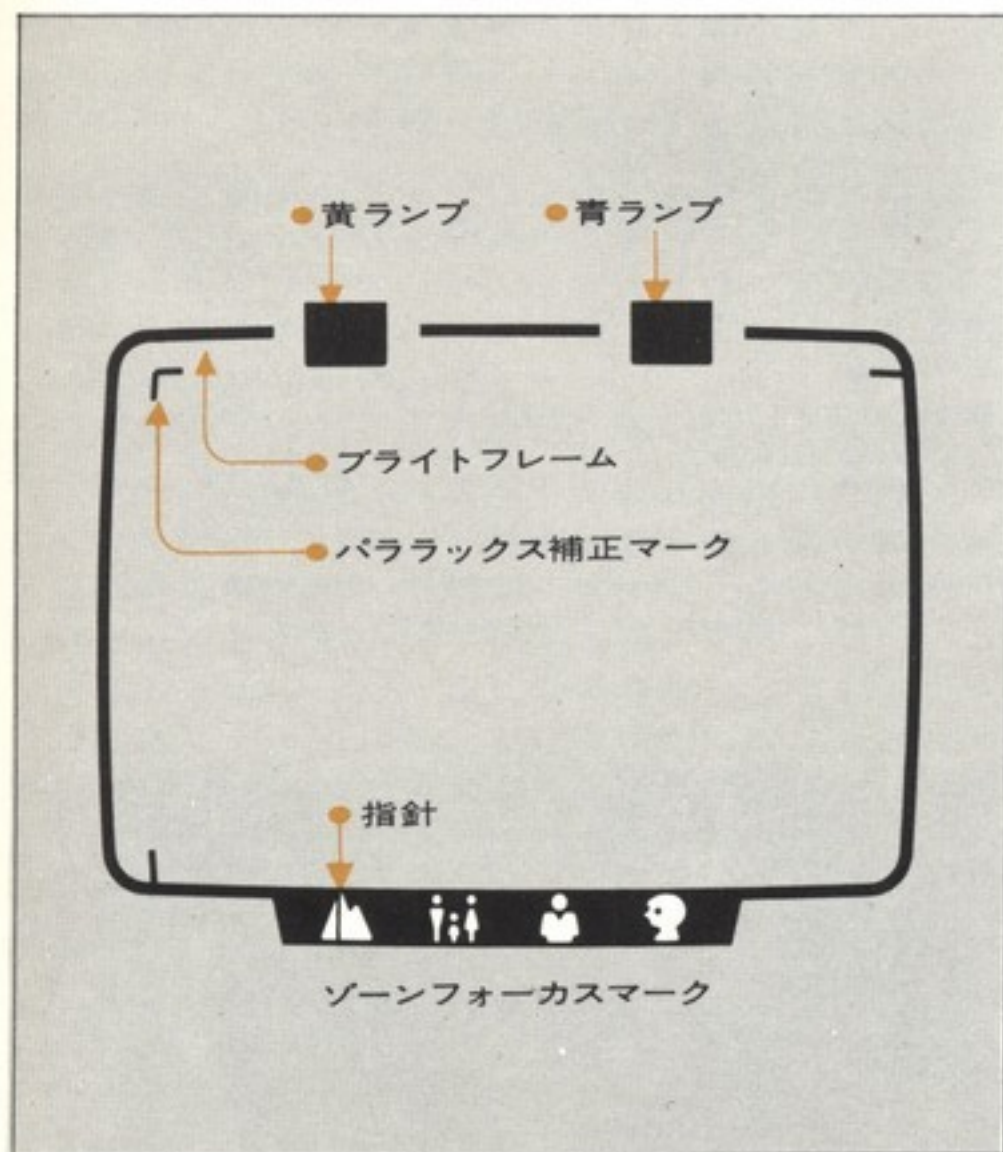


35 ECのピント調節は目測で行ないます。被写体までの大体の距離を測り、距離環を回して中央の標線に合わせます。距離目盛は、1、1.5、3m（オレンジ色）と∞の4点がクリックストップになっています。1mと1.5mの間の点は、1.2mの表示です。特に3mは、常焦点としてスナップ撮影や初心者などが使うときに利用すると便利です。またファインダー内の下部に4つのゾーンフォーカスマークが見られます。指針が距離環と連動していますので、ファインダーをのぞいたままでもピント調節ができます。

距離環	∞	3m	1.5m	1m
ゾーンフォーカスマーク				
被写体	風景や遠景	グループやスナップ	上半身のポートレート	クローズアップ



## ●ファインダーの見かた



### ●ブライツフレームファインダー

ファインダーをのぞいてみると、その周囲に明るい光った枠が見えます。これをブライツフレームといい、この内側に入るものが実際に写ります。撮影のときは、このブライツフレーム内いっぱいに入るようにして構図を決めてください。

### ●パララックス補正マーク

なお1m以内の近距離撮影のときは、ブライツフレームの内側にあるパララックス（視差）補正マークがかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。

### ●黄ランプ

カメラ上部にある黄ランプと同じ役目を果たします。詳しくは13頁をご参照ください。

### ●青ランプ

アクセサリシューにフラッシュガンやストロボを取付けてオートフラッシュマチックになるときは、リリースボタンを押下げていくと、まず黄ランプが点灯し続いて青ランプに切換わります。（19頁参照）

### ●ゾーンフォーカスマーク

指針が距離環と連動していますので、ファインダーをのぞきながらピントが合わせられます。（15頁参照）

● カメラはスマートにしっかり構えます。



美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまで、何回も練習してみてください。

レリーズボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押下げます。そのとき指やケースなどが、レンズや、CdS受光部にかからないように注意してください。構えかたは、構図によってタテ位置でも、ヨコ位置でも自由です。

- ヨコ位置にカメラを構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置にカメラを構えるときは、右ひじをからだにしっかりつけて、左手でカメラをひたいに押しつけて動かないように保持します。

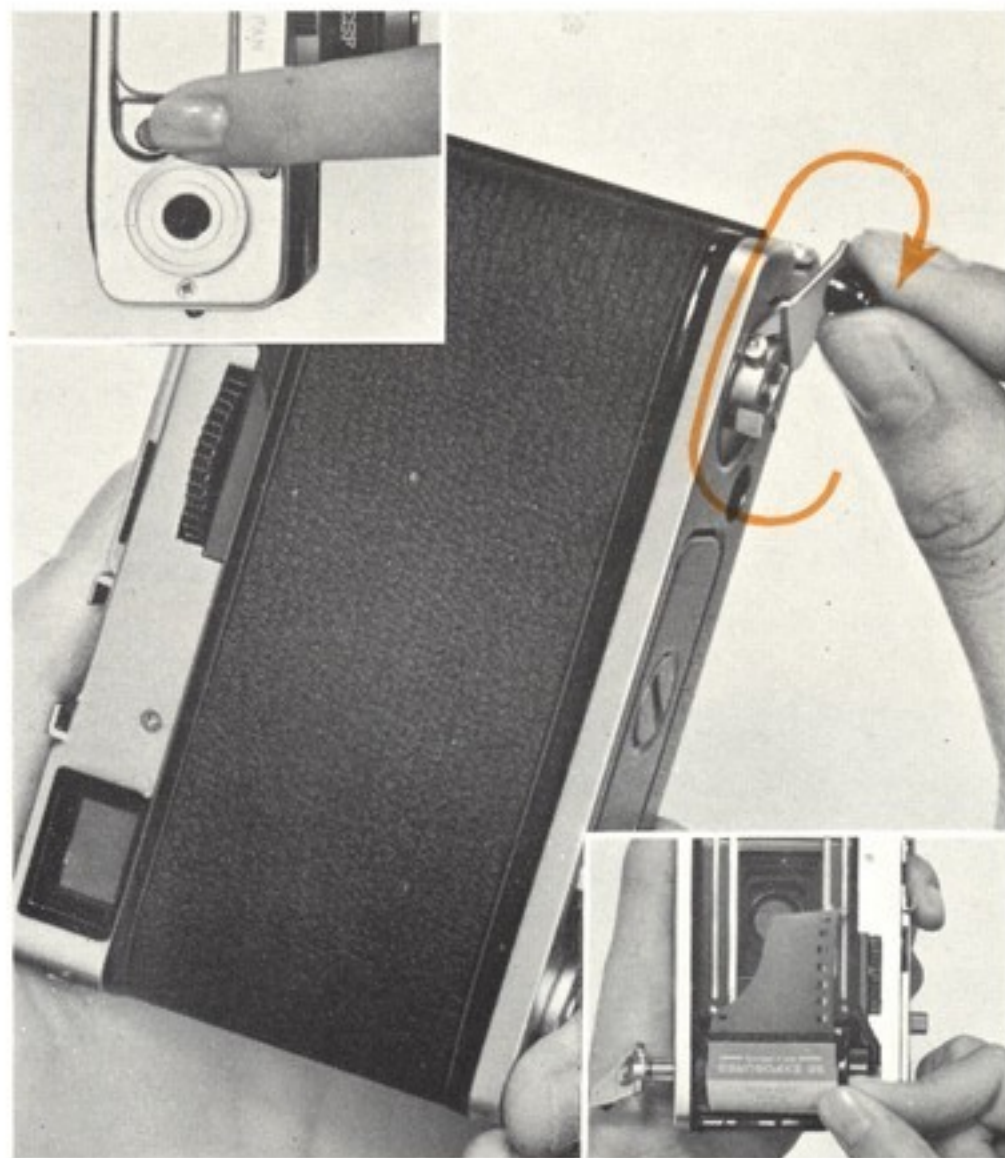


## ●フィルムを巻戻します

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。

撮影し終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚どりフィルム）か20（20枚どり）または36（36枚どり）になったことでわかります。特に12と20と36の各数字は、黄色で表示されていますので便利です。

1. フィルムの巻戻しは、まずカメラ底部にある黒い巻戻しボタンを押込みます。
  2. 次に巻戻しレバーを引起し、黒いツマミを持って矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、レバーが重く感じられますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。
  3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけて、巻戻し軸を引出してフィルムバトローネを取出してください。  
ひっこんだ巻戻しボタンは、1回以上の巻上操作をすれば元の位置に戻ります。
- ※ なおフィルムが終りになって、巻上ノブが途中で動かなくなることがあります。そのときはフィルムが終っているので、無理に巻上げず、撮影を中止してフィルムを巻戻してください。



## ●フラッシュ撮影(オートフラッシュマチック)のしかた

室内や暗い所での撮影の場合は、減速シャッターになりますので一般にはフラッシュバルブやストロボを使ってフラッシュ撮影をした方が良い結果が得られます。35ECの場合はこの限界を自動的に計算できる電子回路が入っておりますので、フラッシュ装置を付けておけば、フラッシュの方がよいときには自動的にフラッシュマチック撮影になり、EE撮影でよいときはフラッシュは発光せずEEで撮影されます。これがオートフラッシュマチックです。すなわちすべての条件での完全オート化が実現したわけです。

オリンパス35ECのアクセサリシューはコードレス接点付ですので、超小型ペンフラッシュCLやオリンパスPS100がコードなしで使え大変便利です。



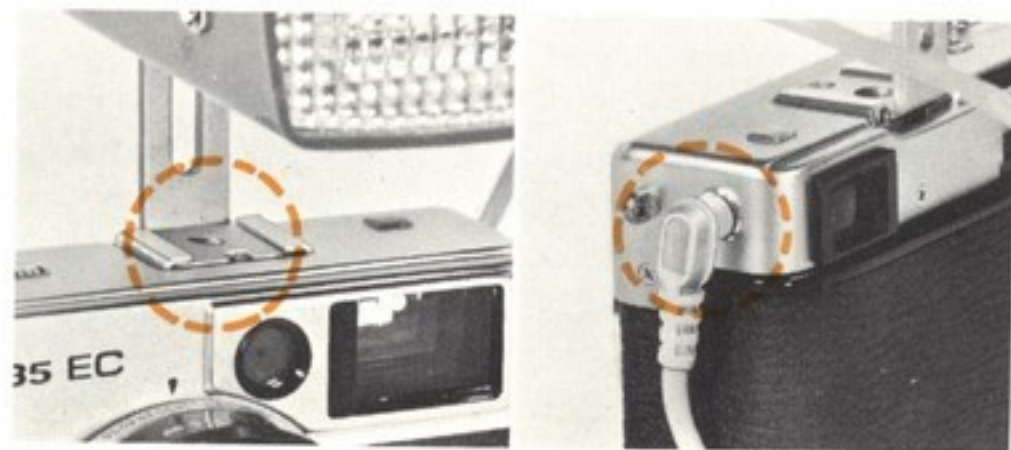
### 1 フラッシュ装置を取付けます。



a) ペンフラッシュCLやオリンパスPS100は、カメラ上部のアクセサリシューに差込むだけで電氣的に接続します。(他の製品でもダイレクトコンタクトの付いているものは同様です。)

b) 一般のフラッシュガンやストロボを使用する場合には、その取付足をアクセサリシューに差込み、接続プラグをカメラのシンクロソケットに取付けます。

なお取付足のないフラッシュガンやストロボは使用できませんのでご注意ください。



●アクセサリシューには、コードレス接点以外にオートフラッシュマチックレバー(小さな爪)が内蔵されています。ここが取付足で下に押されて、はじめてフラッシュ撮影できる体制になるわけです。

**2** ガイドナンバーを合わせます。  
 カメラのガイドナンバー環を回して、使うフラッシュバルブやストロボのガイドナンバーを、中央指標▼に合わせます。  
 ペンフラッシュCLでAG-1バルブを使用する場合は、ASA100で28のガイドナンバーに合わせてください。同様にAG-1Bの場合は、20に合わせてください。またオリンパスPS100は、ASA100で14に合わせてください。  
 専用ガン以外のものを使用する場合は、シャッタースピード $\frac{1}{30}$ 秒のときに使用するフィルム感度によって指定されたバルブのガイドナンバーもしくはそれに最も近いガイドナンバー値を、ガイドナンバー環を回して中央指標▼に合わせてください。



●フラッシュマチック連動範囲図

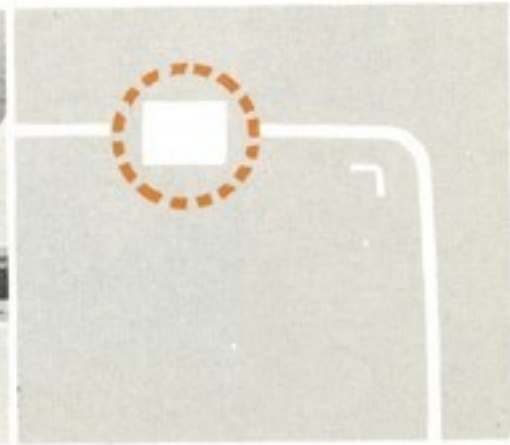
撮影距離 GN (m)	5	3	2	1.5	(12)	1	0.9
7							
10							
14							
20							
28							
40							
56							

連動範囲

**3** ピントを合わせます。  
 被写体までの距離をできるだけ正確に目測し、距離環を回して中央の標線に合わせてください。被写体の距離に応じて露出計算はカメラが自動的にやり、適正な絞りが決まります。

**4** フラッシュ撮影は青ランプが点灯します。  
 オートフラッシュマチックになるときは、リリースボタンを押下げていくと、ファインダー内の黄ランプが青ランプに切換わることが確認できます。そのときのシャッタースピードは $\frac{1}{20}$ 秒です。  
 なお当然注意しなければいけないことは、フラッシュはいつでも発光できる状態であることが大切な条件です。

※ご注意：フラッシュ装置を取付けてリリースボタンを押したままフラッシュバルブを装着しますと、フラッシュが発光して危険ですのでご注意ください。



## ● セルフタイマーの利用のしかた

セルフタイマーは、市販されている差込式の小型のものをご用意ください。写真のようにセルフタイマーの先を、リリースボタンの穴にねじ込んで使います。

### ◎使用上の注意事項

- セルフタイマーは、ストロークが6.5mm以上あるものを使用してください。
- 緩速露出（14頁参照）になる場合は、フラッシュ撮影をしてください。



## ● カメラは大切にしましょう。

- カメラは精密な機械です。落したり、大きな衝撃を与えないようにしてください。また高温の場所に長く放置することは避けるようにしましょう。
- カメラの大敵はホコリと湿気です。保管する場合は、できるだけ乾燥した空気の流通のよいところにしまってください。
- レンズなどの光学部分には、指をふれないように注意しましょう。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布でふいてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまいます。
- 海岸で撮影したあとは、カメラの表面を柔らかい布で良く拭き、塩分などがついたままにしないでください。
- カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取りだして保管してください。次に使用するときは水銀電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いた上、正しく水銀電池室に入れます。
- カメラの具合が悪い場合は、すぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

● 付属品をご利用ください



● フィルター

オリンパス35ECには、43.5mmのねじ込み式を使います。なおY2やND4×などを使う場合は、露出倍数がかかりますので、ASA目盛をそれぞれ $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ にしてください。

またIAフィルターは、白黒フィルムを使っても差支えないので、レンズ保護を兼ねて常用することをおすすめします。

■ フィルターの種類と性質

白黒用	U	V	有害な紫外線をカットして、鮮明な画をつくります。またレンズの保護用として、常時使用できます。	¥800
	Y	2	青空を暗くし白い雲をくっきり浮き出させるなど明暗の描写が強調され、立体感が得られます。	¥800
共用	ND 4×		光の量を $\frac{1}{4}$ にします。カラー・白黒フィルム共に使用できます。	¥850
カラー用	I A (スカイライト)		UV同様有害な紫外線をカットし、青味がかかった画調になるのを防ぎます。またレンズ保護用としても使えます。	¥850
	81C (曇天用)		曇天または雨天で撮影するとき用いると、青味がかかった色にならずに写ります。	¥850
	82C (朝夕用)		朝や夕方など赤い光の多い時間に撮影するとき用いると、黄赤味がかかった色にならずに写ります。	¥850



● フード……………¥500

レンズの画角以外から入る有害な光線を防ぎます。逆光や半逆光などの撮影の場合に必ずお使いください。携帯のときは、逆さにするとレンズの鏡胴にスッポリかぶさりますので、そのままカメラのケースに納まります。

## 海外にお出かけの方に——

万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京営業所にご請求いただければ、お送りいたします。

### オリンパス光学工業株式会社

#### 国内オリンパス・サービス・ステーション所在地

※日曜・祭日および第1・第3土曜日は休みます。

東京	101. 東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス光学工業(株) 東京営業所	電話(294) 4411
名古屋	460. 名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株) 名古屋支店内	電話(961) 0531
大阪	542. 大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス大阪センター内	電話(252) 6981
九州	810. 福岡市天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 福岡支店内	電話(76) 4466
北海道	060. 札幌市北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 札幌営業所内	電話(23) 2320
広島	730. 広島市中町7の32 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 広島営業所内	電話(48) 0291
仙台	980. 仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株) 仙台営業所内	電話(25) 6821
北陸	920. 金沢市香林坊2の4の30 五輪ビル	オリンパス商事(株) 金沢営業所内	電話(62) 8257
横浜	220. 横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株) 横浜営業所内	電話(311) 2041
新潟	950. 新潟市東大通り1の23 マルタケビル	オリンパス商事(株) 新潟営業所内	電話(45) 7337
静岡	420. 静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 静岡営業所内	電話(53) 2135

#### 海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U. S. A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA, 2 Nevada Drive New Hyde Park, N. Y. 11040  
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH. Steindamm 105, 2 Hamburg 1

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

No. \_\_\_\_\_